

経営者への活きた言葉

リーダーに必要な孤独と道徳的勇氣 ウィリアム・テズヴィッツ(文芸評論家・元イエール大学准教授)

1. 実際に孤独を好む人、一人でいるときに最も心地よさを感じ創造力が発揮できると思う人はリーダーに向いていない。むしろ、よきリーダーであるためにはいかにして一人の時間をつくるか、一人で思考に集中できるか、大多数の一致した意見に左右されないか、をわかっていなければならない。「孤独」とは、一人で静かな時を過ごすことへの自信と心地よさだ。
2. リーダーには2種類ある。一方は、地位は手に入れても真のリーダーシップを欠くタイプ。もう一方は「道徳的勇氣」を持つ真のリーダーだ。「道徳的勇氣」とは、自分自身の頭で考える能力、自分が心から信じる物事のための戦い、正しくないと感じた人々に断固として抵抗する意欲を持つことを指す。
3. よきリーダーには、顕著な特徴がある。それは、カネ、名声、地位といった月並みな見返りを求めないということだ。彼らには、目先の事柄を超えて思索をめぐらし、進んで危険を冒す。その結果、同級生たちが手にしている現在の社会的報酬を逃すことになるかもしれない。しかし、彼らは「より価値の高い使命」を追求することによって、社会全体を大きく変えるような考えにたどり着く可能性が高い。

(参考:「週刊東洋経済」2011年11月26日号)

ワンポイント経営アドバイス

事業の再定義

1. 欧州電機最大手のフィリップスは、かつては家電から電子部品まで手がける総合電機メーカーだった。今世紀に入ると自らを「健康とやすらぎを提供する企業」と再定義すると、七つあった事業の中から、医療、照明、家電の三つに絞り込み、複雑化する社会にあって「シンプルシティ」というシンプルさのなかの満足感を提供しようとしている。従来も事業の「選択と集中」はあった。異なるのは、再定義と新しい価値の創出というプロセスがあることだ。
2. 三洋電機とパナソニック電工を完全子会社化し、AV機器や白物家電、電池、建材、電気設備、一戸建て家屋、業務用冷熱機、電子材料まで幅広く手がけ「世界でただ一つのメーカー」になったパナソニックは、従来の電機メーカーから、来るべき2018年の創業百周年に向け、自社を「エレクトロニクスナンバーワンの環境革新企業」へと再定義した。

(参考:「Voice」:2012年2月号)